

平成 25 年（2013）年 8 月 7 日

白馬高校を育てる懇話会長  
太 田 紘 熙 様

白馬高校魅力づくり検討委員長  
宮 澤 敏 文  
〈公印省略〉

これからの白馬高校の魅力づくりについて（答申）

## 1 白馬高校の現状と「白馬高校魅力づくり検討委員会」の検討経過

白馬高校では平成 25 年 3 月の卒業生数は 60 名で、4 月の入学者数は 54 名であった。この結果平成 25 年度の全校生徒数は 155 名（(1)参照）となり、平成 19 年 6 月に長野県教育委員会が発表した「高校改革プランの進め方」の再編基準（(2)参照）に抵触することとなった。

本検討委員会は、このような状況に陥ることを危惧し現状を打開したいとの思いから集った白馬・小谷両村の行政・教育・経済全般に渡る関係者で構成される「白馬高校を育てる懇話会」よりの諮問を受け、平成 24 年度に 7 回の会議を開催した（(3)参照）。これにより、普通科志望の生徒は都市部に集中することから、普通科以外の専門学科設置により生徒確保を図るべく、観光業を中心に発展してきた白馬・小谷地域の特性を生かして観光学科を設置し、全国を含め広域からの生徒募集を行う必要があるとする中間報告をまとめた。

これを受け平成 25 年 3 月 18 日「白馬高校を育てる懇話会」は長野県教育委員会教育長に対し、「長野県白馬高等学校に新学科（観光学科）の設置等に関する要望書」を提出した。

### 要望事項

- 1 観光学科転換により 1 学年 2 クラス規模の高等学校を維持する。
  - 1 クラスを普通科、1 クラスを観光学科とする。
- 2 全国募集を含め広域からの志願者増大を図る。

その後、平成 25 年度に入り本委員会は 4 回の会議を開催し（(3)参照）、カリキュラムや地域との連携のあり方等、観光学科設置についての具体案の検討を続けてきた。

白馬・小谷地域の産業の中核に観光業があることはこれからも変わらない。次代の地域発展を担う若者の教育の場である白馬高校に観光学科を平成 27 年度を目標に設置し、さらなる地域振興に向け灯りを高く掲げることが白馬高校の魅力づくりに繋がるとの考えから、ここに示す最終答申のとりまとめに至った。

(1) 平成 25 年度年度白馬高校の生徒数

(平成 25 年 5 月 1 日現在 1 学年 2 学級規模 80 名定員)

	小谷中学	白馬中学	大町市内	北安郡内	その他	合計	充足率
1 学年	5	33	14	3	0	55	69 %
2 学年	7	26	8	4	1	46	58 %
3 学年	6	32	12	2	2	54	68 %
全校	18	91	34	9	3	155	65 %

(2) 高校改革プランの今後の進め方

(長野県教育委員会による高校再編の新たな方針・基準 抜粋)

【下限規模 2 学級を下回る場合】

以下の I または II の状態が 2 年連続した場合、

- ・地域キャンパス化 (分校化)・他校との統合 (新たな高校をつくる)・募集停止のいずれかとする。

I 全校生徒数が 120 人以下の場合

II 全校生徒数が 160 人以下で、かつ卒業者の半数以上が当該高校へ入学している中学校がない場合

【より小規模になった場合】

2 年連続して、全校生徒数が 60 人以下の場合は、募集停止を検討する。

ただし、卒業者の半数以上が当該高校へ入学している中学校があるときは慎重に扱う。

(3) 「白馬高校魅力づくり検討委員会」検討経過

【平成 24 年度】

- ① 第 1 回 平成 24 年 9 月 18 日 (火) 午後 1 時 30 分より (白馬高等学校 会議室)
  - ・白馬高等学校の現状について
  - ・「高校改革プランの今後の進め方」高校再編の新たな方針・基準について
- ② 第 2 回 平成 24 年 10 月 15 日 (月) 午後 2 時より (白馬高等学校会議室)
  - ・白馬高等学校の来年度に向けた取り組みについて
- ③ 第 3 回 平成 24 年 11 月 8 日 (木) 午前 9 時 30 分より (白馬村役場 会議室)
  - ・白馬高校の新たな方向性について
- ④ 第 4 回 平成 24 年 11 月 19 日 (月) 午後 1 時 30 分より (白馬村役場 会議室)
  - ・委員各所属よりの意見集約
  - ・白馬高校の新たな方向性について (継続)
- ⑤ 第 5 回 平成 24 年 12 月 8 日 (土) 午前 9 時 30 分より (白馬村役場 会議室)
  - ・白馬高校の新たな方向性について (継続)
- ⑥ 第 6 回 平成 25 年 1 月 15 日 (火) 午前 9 時 30 分より (白馬村役場 会議室)
  - ・地域の経済及び観光の状況について (商工会・企業より)
  - ・白馬高校の新たな方向性について (継続)
- ⑦ 第 7 回 平成 25 年 1 月 30 日 (水) 午前 9 時 30 分より (白馬村役場 会議室)
  - ・中間報告のまとめ

## 【平成 25 年度】

- ① 第 1 回 平成 25 年 6 月 16 日（日） 午前 10 時 30 分より（白馬村ふれあいセンター）  
・観光学科について
- ② 第 2 回 平成 25 年 6 月 27 日（木） 午後 6 時より（白馬村ふれあいセンター）  
・観光学科について
- ③ 第 3 回 平成 25 年 7 月 12 日（金） 午後 6 時より（白馬村ふれあいセンター）  
・観光学科について
- ④ 第 4 回 平成 25 年 8 月 7 日（水） 午後 1 時 30 分より（白馬村役場 会議室）  
・答申のまとめ

## 2 白馬高校観光学科概要

### （1）設置目的・教育目標について

- ① 全国トップクラスの観光資源に恵まれた白馬・小谷で、国際競争力の高い魅力的な観光地形成のため地域に貢献する人材を育成する。
- ② 山岳とスキーに関わるビジネスを中心に、観光に係るビジネスについて基本的な知識と技術及び技能を身につけ、多角的に考える力を養う。
- ③ 観光ニーズが多様化・個別化するなかで、自然と人との関わりを通じてホスピタリティーと豊かな感性を養う。

### （2）大学科について

商業科を大学科とする。

### （3）教育課程・科目について

観光学科に係る科目を以下の科目群から組み立て 25 単位以上で構成する。

- ① 文科省設定の商業科目……（ ）は標準単位数
  - ・簿記（3） 適正な会計処理を行うための能力と態度を養う。
  - ・ビジネス基礎（2） 経済社会の一員としてふさわしい心構えを身に付ける。
  - ・課題研究（2） 商業と観光に関する課題を設定し、その課題の解決を図る学習を通して専門的な知識と技術の深化、総合化を図る。調査、研究、実験 作品制作 現場実習 資格取得 等
  - ・情報処理（2） 観光・ビジネスに関する情報を収集・処理・分析し、表現する知識と技術を習得する。
  - ・商品開発（2） 商品開発に関する知識と技術を習得させ、顧客満足を実現することの重要性について理解する。商品を企画・開発し流通活動に参加する。
  - ・総合実践（2） 観光学科で学習した知識や技能を生かし、観光ビジネスを実践する。 アンテナショップ 白馬駅前店の企画運営ツアーイベント企画運営（地域とのコラボレーション）
  - ・その他の商業科目 マーケティング（2） 広告と販売促進（2） 等

② 白馬高校独自の科目……( )は単位数

白馬高校観光学科の魅力を強くアピールする学校設定科目として、地域の人材や環境を最大限に活用した教育内容とする。また、高大連携による授業や休業中の集中講座による増加単位制を併用する。

- ・リゾートスポーツ経営概論（２） 山岳・スキーを中心としたリゾートスポーツについて経営マネジメントの基礎を学ぶ。高大連携により長期休業を利用した集中講義を実施する。いわゆるリゾート期間中の実施とし、講義と現場実習の両面から学習を進める。
- ・リゾートスポーツⅠ・Ⅱ（４） 講義とフィールドでの実習により学習を進める。  
スキー・スノーボード実習 スキー理論（歴史・文化・スキー振興）  
登山実習（将来登山ガイドの知識・技能の習得、登山実習）  
山岳理論（気象・歴史・文化）  
野外実習（キャンプ・フィッシング・マウンテンバイク・ラフティング 等）  
その他（リゾートにふさわしいニュースポーツ開発 等）
- ・環境Ⅰ・Ⅱ（４） これまでの「環境」の授業を、観光の視点からさらに発展させ学習を進める。 地域植生・生態研究 地勢・地質研究 環境調査（水質・土壌・大気） 自然環境観察ツーリズム実践
- ・観光Ⅰ・Ⅱ（４） 講義により観光について基礎的事項を学び、実習によりホスピタリティーの習得を目指す。（参照 資料１）  
観光先進地の学習（例 交通、宿泊、経済等について調査学習）  
観光政策・観光行政についての学習（例 インバウンドについての学習）  
ホテル実習・その他の観光実習 海外有名観光地でのホームステイ  
地域文化・風土研究
- ・観光英語（２） 講義と実習により、英語による観光案内に必要な知識と技術の習得を目指す。 異文化理解のための学習、観光紹介・パンフレット作成

③ 文科省指定の他教科・他学科の科目を援用……( )は標準単位数

- ・フードデザイン（２） 商品開発の視点を交えて学習を進める。
- ・工芸Ⅰ（２） 商品開発の視点を交えて学習を進める。

④ インターンシップ

- ・短期就業体験
- ・デュアルシステム

⑤ 大学との連携

観光学科として設定する授業の多くの部分で大学の協力を得る。

#### (4) 関連する施設設備について

この地域の文化・観光の核として、地域連携の拠点となる施設・観光実習棟の新設（旧体育館跡地）が必要である。

- ・一階 観光学科実習室1（講義及び実習、各種調査研究に利用）  
観光学科実習室2（食品関係商品開発、地域開放講座等に利用）  
観光学科実習室3（木工等の食品以外の商品開発、地域開放講座等）  
観光学科実習室4（PC実習及各種調査研究に利用）  
観光学科研究室（観光学科職員の研究室）  
トレーニングルーム（地域開放）
- ・二階 多目的フロアー  
各種集会・地域連携イベント・地域開放講座、スポーツ等に利用

#### (5) 専門教育のための外部講師活用・インターンシップについて

外部講師として、白馬村・小谷村のホテルオーナー、シェフ・ソムリエ、企業経営者、外国人等に依頼する。また、村内の複数企業にインターンシップの受け入れを依頼する。

#### (6) 観光学科卒業後の進路について

就職の場合は、地域はもとより県内・全国の観光関係業種への就職を目指す。  
進学の場合は、観光学部・学科を持つ大学への指定校による推薦入学及び経済・商業系の大学・短大・専門学校等への進学を目指す。

### 参考資料

#### 1 学校設定科目「観光」について

（現在のアルプスコース「観光」の状況と観光学科「観光」について）

現在白馬高校ではアルプスコースに学校設定科目「観光Ⅰ・Ⅱ」（今年度選択者観光Ⅰ 2学年 8名、観光Ⅱ 3学年 13名）を開講し、講義による地誌的学習と実地見学を交えた塩の道の研究等を行っている。この授業を選択する生徒に対しアンケートを実施した結果、彼らの意識については以下のようにまとめることができる。

選択者の約八割が授業は「楽しい」「どちらかと言えば楽しい」とし、観光に対する元々の興味・関心はあまり高くなかったが、授業を受け「観光や地域のことに興味や関心を持つようになった」と考えている。また、多くの生徒が「機会があれば観光の振興に協力したい」とする一方、観光業を将来の職業の選択肢と考えている生徒は少ないのが現状である。

これに対し観光学科設置により実施される「観光」は、観光業の実際について基礎的

事項から学び、ホテル実習等によりホスピタリティーの習得を目指すものである。また、海外の観光先進地でのホームステイによる実習及び語学学習等も検討している。

数年来経済の冷え込み等により、本校卒業生の地元観光業への就職は少ないかゼロという状況が続いてきたが、平成 25 年 3 月には 3 名の生徒が白馬村内のホテルへの就職を遂げた。これは校内担当職員と地元の関係者の連携による就職先掘り起しの成果に、地元への就職を強く希望する生徒のニーズがマッチした結果である。

観光学科における授業の基幹となるのが「観光」である。この授業を充実したものにすることで観光への興味を高めるとともに、地元観光産業への就職者を増やすことにより地域への貢献が果たされると考える。

## 2 これからの白馬・小谷両村及び同窓会の協力体制について

白馬・小谷両村はそれぞれに「白馬高校を育てる村民大会」を開催し、魅力ある白馬高校を育てるために協力を惜しまないとする確認を行った。また、白馬高校同窓会についても村民大会と同様の確認を行った。協力の具体的な内容については、これからさらに検討を進める。

- ・白馬村民大会 平成 25 年 5 月 30 日（木） 白馬村ウイング 2 1
- ・小谷村民大会 平成 25 年 6 月 3 日（月） 小谷村多目的ホール
- ・白馬高校同窓会緊急総会 平成 25 年 7 月 31 日（水） 白馬村ウイング 2 1

## 3 これから高校進学を迎える白馬・小谷地域の生徒・保護者の意識について

当検討委員会では、白馬・小谷両中学校の全学年生徒・保護者に対し観光学科への興味・関心（3 年生については入学希望の有無）を問うアンケートを実施した。

実施後の問題点としては、性急な実施のため情報が十分伝わらなかったきらいがあること、また 3 年生の生徒・保護者については、進路希望がほぼ固まりつつあるなかでのアンケートで、そもそもの興味・関心が薄い状況であったことなどがあげられる。

しかしながら、1 学年・2 学年の生徒・保護者については、現状の白馬高校に比べ観光学科を導入した場合は興味・関心が高まるとする結果が確認された。（生徒 回収率 97% 20%から 28%に増加、保護者 回収率 70% 47%→53%に増加）

また、自由筆記部分では、昨今の経済情勢から観光産業自体の厳しさを訴える回答が少なからずある一方で、この地域の産業の中核を占める観光業とそれを担う若者の教育の新しいあり方に期待する回答が多く寄せられた。

## 4 全国募集の展望について

白馬・小谷地域の日本を代表する山岳リゾート観光資源と伝統が創り上げた観光産業及びリゾートスポーツの特質を活かして他に類のない観光学科を設立し、また安全で安心な寮生活を送ることのできる体制を構築することで、全国からの進学者に対応する。

## 平成 24・25 年度白馬高校魅力づくり検討委員会名簿

(二段の氏名欄 上段 平成 24 年度担当者 下段 平成 25 年度担当者)

所 属 職 名	氏 名	備 考
長野県議会議員	宮 沢 敏 文	委員長
白馬村長	太 田 紘 熙	
小谷村長	松 本 久 志	
白馬村議会総務社会委員長	太 田 伸 子 田 中 榮 一	
小谷村議会総務委員長	猪 股 英 人	
白馬村教育委員長	太 田 昭 雄 武 田 彰 代	
小谷村教育委員長	平 林 哲 夫 相 澤 八 重 子	(H24 第 1 回まで)
白馬村教育長	福 島 総 一 郎 横 川 宗 幸	
小谷村教育長	細 井 仁	
白馬中学校長	尾 形 浩	
小谷中学校長	小 林 芳 裕	
白馬高校同窓会長	松 沢 宗 昭	
白馬高校 P T A 会長	土 岐 直 美 下 川 浩 紀	
白馬高校スキー部 O B 会長	和 田 光 三 平 林 英 夫	
白馬高校長	米 窪 伸 一 郎	
白馬高校教頭	板 花 淳 志	
白馬高校事務長	浜 正 彦	
白馬高校将来検討委員長	尾 川 雅 彦 服 部 晃 一	(H25 将来検討委員)
白馬高校生徒指導主事・スキー部顧問	矢 口 壯 二	